

海の森化粧品とケミカルコスメ・オーガニック(無添加)化粧品の違い

●海の森化粧品とケミカルコスメの違い

海の森化粧品とケミカルコスメの違いは、その目的にあります。

ケミカルコスメは、成分よりも「使い勝手(使用感、香りなど)」「買いやすい価格」などを重視して作られており、その目的は「美を演出する」ことにあります。抜群の使用感や即効性を得られる一方、使い続けると、配合の化学薬剤によって肌の自然治癒力の低下が早まり、乾燥しやすい肌になるなど、かえって肌の老化が進みます。肌がキレイになるのはあくまで一時的。乾燥等の肌トラブルを改善・予防するために使用する商品ではありません。

一方、肌の自然治癒力を高めて「健康な素肌を維持する」ことを目的としているのが海の森化粧品です。ケミカルコスメに比べると、使用感や即効性に物足りなさを覚えたり、独特の植物臭がありますが、肌に対して植物成分が穏やかに働きかけるため、徐々に肌の自然治癒力が高まります。乾燥しにくい肌になり、年齢を重ねても、キメ細かく、くすみのない透明感ある素肌を維持することができます。

●海の森化粧品とオーガニック(無添加)化粧品の違い

実際に自然治癒力をサポート(高める)できるかどうかの違いがあります。

近年、肌力を生かすという考え方のオーガニック化粧品が増えてきていますが、いくら自然な成分を使用しても、ケミカルコスメと同じこと(美の演出)をしていては、肌力は一向に高まらず、むしろ肌が弱くなり、肌の老化が進みます。

肌につける場合、化学薬剤を使用せず、自然なものであることは大切ですが、全て自然のものでできているオーガニック化粧品は少なく、自然の原料を加工したり、防腐剤を配合。また、全て自然のものでも、アルコールを配合、オイルフリー、あるいは多量のオイルを使用する商品が大半です。ケミカルコスメに比べると肌への負荷は少ないですが、継続して使用すると、自然治癒力の低下が早まります。「肌が荒れない」「敏感肌でも使える」「ケミカルコスメよりもよさそう」という、肌にやさしいイメージを持たれる方が多いオーガニック化粧品ですが、成分表記をしっかりと確認することが大切です。

また、「目や口に入っても支障はないか」も見分けるためのポイントになります。全て自然なもの、且つ含有量が微量であれば、目や口に入っても(粘膜に触れても)問題はありません。粘膜に触れても支障がないということは、肌につけても、肌は異物と認識せず受け入れてくれるということが言えます。

海の森化粧品は、全て自然な原料を使用し、無加工、アルコールフリー(目や口に入っても支障なし)。微量の油分が含まれていますが、単に肌を保湿するのではなく、角質バリアの修復に必要な油分(タイプIのセラミド)が含まれています。肌に負荷をかけることなく、乾燥・紫外線・細菌の増殖などの外部刺激や皮膚内部の水分蒸散を防ぐため、しっかりと自然治癒力をサポートできるのが特長です。